

授業科目名	共生教育学演習	科目番号	02EU120
単位数	2単位	担当教員	庄司一子・徳永智子
授業時間	春AB 秋AB 応談	研究室	庄司:総合研究棟D315 徳永:人間系A542(総合D D314)
科目の種類	演習	メールアドレス	庄司:ichiko@human.tsukuba.ac.jp
標準履修年次	1-3年	オフィスアワー	庄司:木曜15時~16時半

授業の到達目標 「共生教育学」は、個人の能力開発と個人間の競争を前提とした能力主義的メリトクラシー原理に依拠した近代公教育に代わる、新たな教育の在り方を理論的・実証的に探求することを目的としている。この目的を達成するためには、このような教育を支える、他者、共存、共生、配慮、互助、互恵、支援、世話(ケア)といった諸概念や考え方についての検討が不可欠である。併せて、このような教育の内容や方法、学校をはじめとする教育諸機関の組織や経営、さらには、教育の制度や広く社会の在り方についての検討も必要である。授業では、上記の検討を自らの研究テーマに引きつけ、かつ、それを的確に行える力を形成することを目標とする。

授業の概要 共生を志向する教育研究について、学校教育臨床学、教育経営学、教育社会学の立場から、討議、検討を行う。具体的には、受講者が進めている研究の計画や過程、成果を報告し合い、討議を通して、その視点や方法、結果について検討する。もって、研究の高度化、深化を図っていく。全10回を予定。

テキスト 花崎皋平『アイデンティティと共生の哲学[増補版]』平凡社、2001年。
野口道彦・柏木宏編『共生社会の創造とNPO』明石書店、2003年。
広井良典『ケアのゆくえ、科学のゆくえ』岩波書店、2005年。
岡本智周・田中統治編『共生と希望の教育学』筑波大学出版会、2011年。

参考図書 授業を通じて、適宜、紹介すると同時に、受講者同士での紹介を心がける。

成績評価の方法 授業における報告と討論への参加によって評価する。

授業計画

回	担当教員	授業内容
1	庄司・飯田・岡本	イントロダクション
2	庄司・飯田・岡本	共生教育学研究の計画・過程・成果の報告と討議(1)
3	庄司・飯田・岡本	共生教育学研究の計画・過程・成果の報告と討議(2)
4	庄司・飯田・岡本	共生教育学研究の計画・過程・成果の報告と討議(3)
5	庄司・飯田・岡本	共生教育学研究の計画・過程・成果の報告と討議(4)
6	庄司・飯田・岡本	共生教育学研究の計画・過程・成果の報告と討議(5)
7	庄司・飯田・岡本	共生教育学研究の計画・過程・成果の報告と討議(6)
8	庄司・飯田・岡本	共生教育学研究の計画・過程・成果の報告と討議(7)
9	庄司・飯田・岡本	共生教育学研究の計画・過程・成果の報告と討議(8)
10	庄司・飯田・岡本	全体を通して——共生教育学の今後の課題

授業科目名	共生社会学演習	科目番号	02EU121
単位数	2単位	担当教員 (科目責任者)	徳永智子
授業時間	春AB秋AB 応談	研究室	人間系A542
科目の種類	演習	電話 又は メールアドレス	
標準履修年次	1-3年	オフィスアワー	

授業の到達目標

越境という視点から、関連文献を批判的に検討し、「共生」に向けた教育や社会について考察する力を身に着ける。

授業の概要

「越境と共生」をテーマとして、越境理論、ポストコロニアリズム、批判的教育学、教育社会学などの理論的検討をするとともに、社会的包摂・排除、特権、マイノリティ、多文化主義、居場所、インターセクショナルリティ、行為主体、アイデンティティなどの概念を手掛かりに文献を講読し、「共生」に向けた教育や社会のあり方について考えます。毎回、受講生が文献に基づく報告をし、全員で討論する。

テキスト

授業で適宜紹介する。また、各自の研究を進めるうえで参考になる文献を紹介し合う。

参考図書

岩渕功一編(2010)『多文化社会の「文化」を問う: 共生/コミュニティ/メディア』青弓社。
塩原良和編(2017)『社会的分断を越境する: 他者と出会いなおす想像力』青弓社。
Tokunaga, T. (2018) *Learning to Belong in the World: An Ethnography of Asian American Girls*. Singapore: Springer.

成績評価の方法

授業での発表、レポート、ディスカッションへの貢献などを総合的に判断し、評価する。

授業計画

回	担当教員	授業内容
1	徳永智子	イントロダクション
2~4	徳永智子	越境理論の検討
5~6	徳永智子	エスニシティ・ナショナルリティ・言語
7~8	徳永智子	ジェンダー・セクシュアリティ
9~10	徳永智子	障害
11~13	徳永智子	「知の生産」の問い直し
14-19	徳永智子	越境と共生に関するエスノグラフィーの講読・討論
20	徳永智子	まとめ

授業科目名	教育経営開発論演習	科目番号	02EU123
単位数	2単位	担当教員 (科目責任者)	浜田博文
授業時間	春AB秋AB 木6・7	研究室	人間系学系棟 B507
科目の種類	演習と実習・実験	電話 又は メールアドレス	hamada@human.tsukuba.ac.jp
標準履修年次	1～3年	オフィスアワー	水曜日 11:00～12:00

授業の到達目標

学校経営学、教育経営学の立場から学生の問題意識に基づいて各自の研究テーマを確定し、その研究を進めるなかで、研究者としての理解力、探求力、考察力を獲得する。

授業の概要

学校経営学における研究方法について議論し、論文作成のための研究指導を行う。

テキスト

特に定めない。

参考図書

特に定めない。必要に応じて授業のなかで言及する。

成績評価の方法

授業での研究報告、討議参加及び研究の進捗状況によって評価する。

授業計画

回	担当教員	授業内容
1	浜田博文	オリエンテーション
2～20	浜田博文	研究の進展状況の報告と研究についての検討

授業科目名	教育臨床学演習	科目番号	02EU124
単位数	2単位	担当教員	庄司一子
授業時間	春AB 秋AB 応談	研究室	総合研究棟D315室
科目の種類	演習	メールアドレス	ichiko@human.tsukuba.ac.jp
標準履修年次	1-3年	オフィスアワー	木曜日 15:00~16:30

授業の到達目標 研究論文を読む力を養い、先行研究を批判的に検討する力を養い、さらに先行研究の検討にもとづき的確な研究計画を立て、研究倫理に基づき、研究を進める力を養うことをめざす。

授業の概要 教育臨床、学校教育臨床に関する最近のトピックスについて文献を集団討議し、教育臨床の理論・アプローチへの理解を深める。本年は、対人関係、絆、信頼感、ケア、レジリエンスをキーワードに関係論文、書籍を読み、集団討議を通して教育臨床における児童生徒の問題、援助に関する考察を深める。

テキスト

Luthar, S. S. Crossman, E. L., & Small, P.J. (2015). Resilience and adversity. Handbook of child psychology and developmental science 7. Joh Wiley & Sons Inc.

Noddings, N. (1984) Caring : A Feminine approach to ethics and moral education. The Regents of the University of California.

Martin, J. R. (1992). The schoolhome: Rethinking schools for changing families. Harvard University Press, London.

参考図書

Noddings, N. (2013). Education and Democracy in the 21st century. Teachers College Press, NY.

Noddings, N. (2005). The challenge to care in schools. An alternative approach to education. Teachers College Press, NY.

Noddings, N. (1986). Caring: A relational approach to ethics and moral education. University of California Press. LA.

成績評価の方法 授業での発表、レポート、出席状況を総合的に判断して評価する。

授業計画

回	担当教員	授業内容
1	庄司 一子	オリエンテーション(研究倫理指導, 研究倫理審査申請作成指導を含む)
2~5	庄司 一子	関係論文 発表, 討議
6~7	庄司 一子	研究計画
8~14	庄司 一子	調査実施
15~17	庄司 一子	データ解析・検討
18~19	庄司 一子	まとめ
20	庄司 一子	発表

授業科目名	教育社会学特別研究	科目番号	02EU126
単位数	2単位	担当教員 (科目責任者)	庄司一子・徳永智子
授業時間	春AB秋AB 応談	研究室	総合研究棟D棟314
科目の種類	演習と実習・実験	電話 又は メールアドレス	hiroiiida@human.tsukuba.ac.jp
標準履修年次	1～3年	オフィスアワー	火曜日 14:00～16:00

授業の到達目標 教育社会学の立場から「共生」を見据えた社会及び教育についてテーマを確定し、その研究を進めるなかで、研究者としての理解力、探求力、考察力を獲得する。

授業の概要 履修者の研究に合わせて、研究の進行状況や成果を報告し合い、課題についての理解と探求を深め、研究活動を支援する。

テキスト
特に定めない。

参考図書
特に定めない。必要に応じて授業のなかで言及する。

成績評価の方法 授業での研究報告、討議参加及び研究の進捗状況によって評価する。
※週1回定例で開催する研究室の研究会への参加を含む。

授業計画

回	担当教員	授業内容
1	飯田浩之	オリエンテーション
2～10	飯田浩之	研究の進展状況の報告と研究についての検討(月1～2回の割合で集中して実施)

※週1回開催の研究室定例の研究会への出席及びそこでの研究報告を含む。

授業科目名	教育臨床学特別研究	科目番号	02EU128
単位数	2単位	担当教員 (科目責任者)	庄司一子
授業時間	春AB秋AB 応談	研究室	総合研究棟D棟315
科目の種類	実習	電話 又は メールアドレス	ichiko@human.tsukuba.ac.jp
標準履修年次	1-3年	オフィスアワー	木曜日 15:00~16:30

授業の到達目標 個々人の研究テーマ、研究計画にそって研究指導を行う。研究の目的、方法、結果の分析が適切であるかどうかの検討、研究倫理を遵守して研究が進められているか併せて確認し、研究の洗練、促進を目的として指導を行う。最終的に博士論文の完成が目標である。

授業の概要 各自の研究テーマに沿った先行研究の検討、理論の検討を行う。次に研究の目的の設定、研究方法の選択と決定、結果の分析、まとめ方について、個人指導、集団指導を必要に応じて並列して行う。

テキスト American Psychological Association (2009). Publication manual of the American Psychological Association, sixth edition.
American Psychological Association (2009). Concise Rules of APA Style.

参考図書
必要に応じて推薦する

成績評価の方法 指導を受ける際の準備状況、集団指導への参加・発言などにより総合的に評価する。

授業計画

回	担当教員	授業内容
1	庄司一子	オリエンテーション、年間計画
2~20	庄司一子	個人指導を中心とし、個人指導と集団指導を並行して進める。